

一輪車に乗ってる友達

小畑 春香 札幌市福井野小学校(4年)

北海道教育美術展奨励賞作品

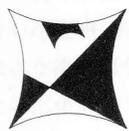
評

友達の大小で、おくゆきを表現した構成は優れています。手をあげて、バランスをとる様子がよく表現されています。

目次

新委員長のことば……………2
 札幌大会研究主題解説……………3
 札幌大会案内……………4・5

サークル紹介 -石狩-……………6
 平成3年度の事業計画・原点……………7
 サクラクレパス・あとがき……………8



北海道
造形教育
連盟報

No. 88 1991.6.5 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒065 札幌市東区北46条東13丁目1番地

札幌市立栄東小学校 鹿嶋 健

☎011-753-2670

報告と感謝を交えて



北海道造形教育連盟委員長
佐々木 理 温
(札幌市立三角山小学校長)

本年度の地区委員総会は、昨年度と同じすすきの近隣の三川屋会館において4月28日(日)に開催されました。80名を越す人数を収容できて会議と懇親会を兼ね、交通至便の会場となると、経費に限度があることもあって簡単には見つからないものです。いつか北師会館のように、連盟にふさわしい会場が確保されることを願うものです。

さて、この会場で第13代委員長として、甚だ非力の私とその責を負うことになりました。お一人お一人が優れた実績をお持ちだった歴代委員長をはじめ、数多くの先輩が築かれた全国にも誇り得る連盟の財産を大切に、また今後のより豊かな発展のために一層着実な歩みを続けることが、私に課せられた責務であろうと考えられます。皆様のご協力を切にお願いいたします。

私が連盟に加入させていただいたのは、昭和36年頃だったでしょうか。39年には勤務校北九条小で第14回大会が開催され、無我夢中で公開授業と学校発表をしてしまったことが思い出されます。爾来30年、3回の札幌大会をはじめ全道各地の大会に参加させていただき、造形教育の基本は勿論、子どもから学びとる教師の姿勢を教えていただきました。また、今日まで地区サークルの方々の並々ならぬ努力が、北海道の造形教育を支えてきた事実を実感として受けとめることができたことも大きな収穫でした。今は連盟に育てていただいたことに感謝すると共に、連盟と共に歩んできたことを誇りにしております。

その連盟も昨年で結成40周年を迎え、第40回記念大会が苫小牧において「紙フェスティバル」を中心に開催されました。40周年を祝う会も地区委員の方々にご案内を差し上げて、苫小牧大会に引き続いて洞爺湖温泉万世閣で開催されました。札幌・胆振を中心に協賛会員の方々の参加もえて総勢41名でしたが、連盟40年の歴史を諸先輩の語りでつないだスライド映写、短い時間でしたが思い出に浸った歓談で有意義な時を過ごしました。

平成3年度の本年は、いよいよ私の現勤務校三角山小で第41回大会を迎えます。狭隘な施設でご迷惑をおかけしそうですが、絶好の自然環境を背景に札幌彫刻美術館での鑑賞授業等を折り込んだユニークな大会づくりで、皆様のお出を心からお待ちしております。

今後の大会は、来年の平成4年度が第42回大会函館大会として大会主題「感動、そして創造する喜びを」で、函館市美術教育研究会を中心に準備に入っており、会場深堀中、期日7月28・29日と決定しています。

再来年の平成5年度第43回大会についても、地区委員総会後のつい先日、旭川市教育研究会函工美術部会から正式に開催引き受けを決定した旨の連絡をいただいたところです。ラムサール条約会議との関連事情で、平成6年度開催にまわった釧路造形教育研究会を含め、各地区サークルの全道的視野に立った積極的な協力態勢に、敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、読売新聞社と共催の「全道小・中学生立体造形展」が、スポンサーの撤収によって昨年度の第15回をもって止むなく中止となりました。新学習指導要領に標榜された心の教育や人間教育の基礎となる造形教育へのこの棹さす現実に、何か無念ささえ憶えます。また近い日に、私達の手で立体造形展が再生することを信じ、努力を続けたいと思っております。

平成3年度 役員及び部長

委員長	佐々木理温	札幌	三角山小長	事務局次長	船着 昭弘	札幌	開成小
副委員長	田邊 康夫	函館	大川中長	"	村谷 利一	札幌	北栄小
"	庄 栄一	月形	知来乙小長	"	土岐 禎次	札幌	札幌北高
"	川島 信也	旭川	神居古潭小長	会計部長	白井 圀毅	札幌	藤野小長
"	宗廣 義彦	釧路	城山小長	庶務部長	佐藤 靖	札幌	三角山小
監 査	寺本 吉明	中札内	中札内中長	広報部長	毛馬内国夫	札幌	桑園小
"	山宮 喬也	留辺藪	留辺藪小長	研究部長	富田 泰	札幌	伏見小
事務局長	鹿嶋 健	札幌	栄東小長	事業部長	藤井 正治	札幌	創成小

札幌大会研究主題解説

研究主題『子どもの創る喜びをひらく』



研究部長
札幌市立伏見小学校
富田 泰

*はじめに

私たち北海道造形教育連盟の研究の根底に位置していたものは、「指導の構築」の理論でした。そして、今もそれは変わることはありません。しかし、今日の教育の課題とこれからの教育を考えていくとき、今回の新学習指導要領の精神を謙虚に受け止める時にきています。そして、具体的な取り組みの中で改革をしていかなければなりません。その大きなものは、正に「子ども側に立った実践の具体化」であります。

反省するに、私たちは、私たちの側に立った指導でありました。「こうするとこうなる」だろうという実践の仮説を立て、それを忠実に具体化してきたといっても過言ではないと思います。

ルールを引き強引に引っ張ってきたともいえるのではないのでしょうか。そして、一斉画一的な作品、作品づくりの指導、作品化に力を注ぎ過ぎたという反省を中心に今その指導観や指導理念を変えようとしているものと思います。しかしながら、決して過去の指導を短絡的に否定するものではなく、その財産の上に立っての改革とおさえたいものです。

*札幌大会の研究主題と実践研究のおさえ

日常の授業の中で、子どもたちの造形活動に驚かされることがあります。私たちの指導内容になかったり予期しなかった子どもの活動です。

子どもたちの固まっている内面が溶けたり、揺さぶられたりすると、「子どもらしさ」や生命をどっと噴出したりして、私たちはびっくりさせられます。

これは、潜在的にある子どもの力が予期しないときによくあるものです。

そんな時、子どもは生き生きとして「子どもらしく」「自分らしく」そして、素直に全身で喜びを表し、人間味溢れんばかりに表出しているものと思います。

「創る喜び」とはそんな時の子どもの姿と考えます。

このような子どもの姿に出会った時、色や形を使って「創る」という造形行為は、とても人間らしい（その子らしい）と思うと同時に、造形教育は決して強いることなく、子どもが持っている潜在の力を精一杯発揮できるように「手伝ってやる」ということが、私たちの仕事ではないのでしょうか。

『子どもの創る喜びをひらく』はこのような考えのもと、今私たちがすべき実践課題としておさえています。

1. 教師の押しつけや主導ではなく、子ども一人一人の個性や主体性を重んじる授業づくり。
2. 子どもを今まで以上に理解し、「教える」ことから「学ぶ」教育へと転換した授業づくり。

を追求の中心視点と考えました。

「個性」や「思いのままに」をテーマに今までも多くの実践がなされてきましたが、それらを子どもの活動や姿から読み取ることは、難題なことです。

しかし、今求められる造形教育もそれが大きなめあてであり大きな課題であります。

*主体性のある子どもの活動と援助

造形活動において、子どもは料理人であり、決して教師が料理人であってはならないのです。材料や調味料ができるだけ子どもの前に用意され、そして、子ども自身が料理をするからです。教師は子どもの意欲をそえて考える料理へと援助（導く）するのです。つくり手はあくまでも子ども自身なのです。

造形教育の仕事は、子どもそれぞれにあるイメージを膨らませ、表現させることであって、教師のイメージを子どもに押し付けたり、一定の枠を与えることではないのです。

「なすことによって学ぶ」という原理は、教育指導を貫く基本と言えますが、時代背景の中で一様ではなかったのではないのでしょうか。

子どもの個性を軽視した、教師側の一方的、直線的押し付け型指導を強く想起するところです。改めて基本に関わる示唆として考えなければならないと思います。

また、私たちは、急速に変わる社会と子どもの生活からどのように子どもを見つめとらえていくかがとても大切なことです。

研究主題「子どもの創る喜びをひらく」の追究視点「授業づくり」とともに、札幌大会にむけ改めて教育を受ける「子どもの見つめ直し」も同時に進めてきました。ご批評よろしく願いいたします。

第41回全道造形教育研究大会

札幌大会



札幌大会シンボルマーク

大会主題

子どもの創る喜びをひらく
平成3年7月28日(日)・29日(月)

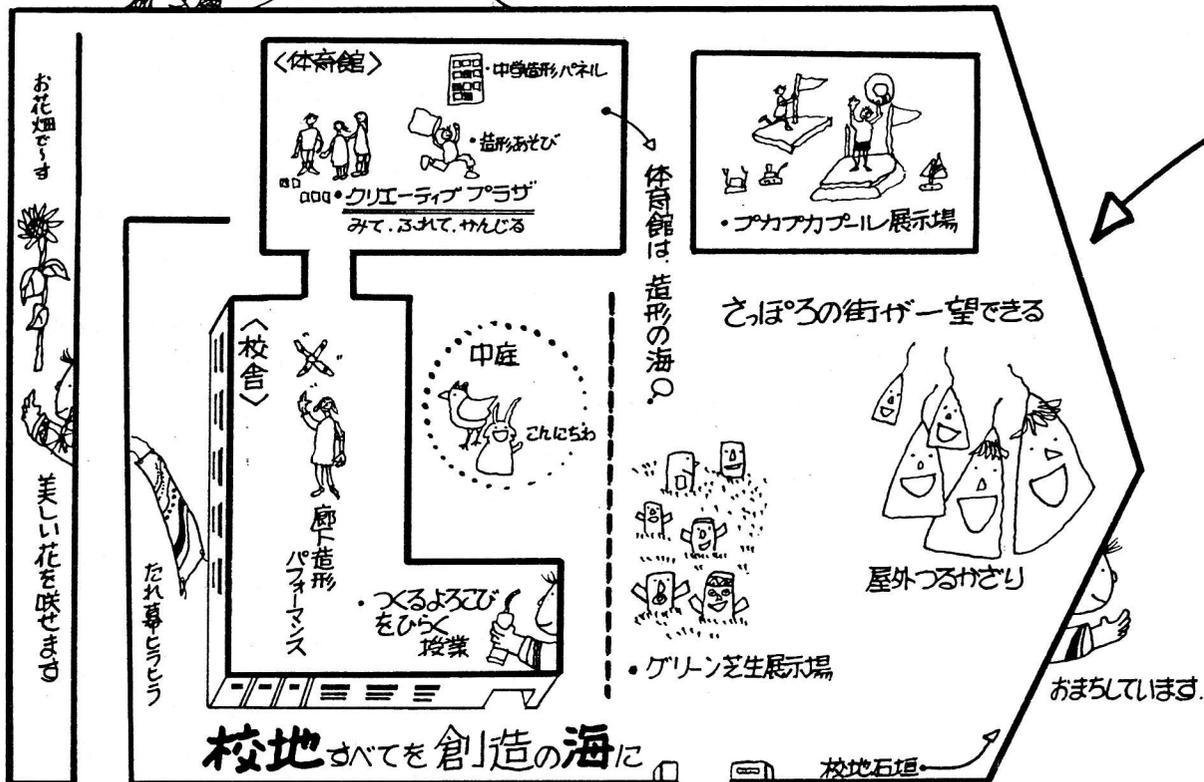
カラフルな石畳がロマンの
香りを醸し出す
その路を辿ると偉大な
彫刻家の情熱が漲る
札幌彫刻美術館が
みえてくる
そんな空気の中に佇む会場校で
子どものきらめく造形心を
いただきたい感じて



会場校 札幌市立三角山小学校

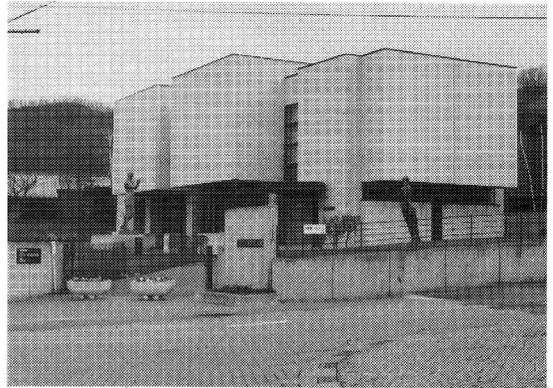
会場校 (札幌市立三角山小学校) は
中央区南4条11丁目
011-643-1133

ほとと三角の三角山がまてて 造形王手箱





■ 本郷新記念館

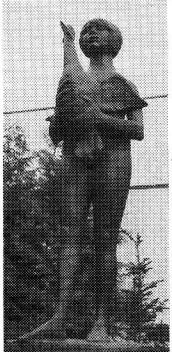


■ 札幌彫刻美術館

<会場校から徒歩3分です>

会場付近マップ

こちらが北



しセッション：ホテルアカシア 中央区南12面1 521-5490

サークル紹介

石狩の造形教育

恵庭市立恵み野中学校 宮川誠一

石狩連が発足して約30数年の歴史を刻んでおります。昭和50年に第25回全道造形教育江別大会を開催し、大きな示唆と展望を得ることが出来ました。

石狩管内には、石教研という研究組織体制があり、そのなかの図工・美術部会が研究活動の中核となっています。3市、3町、3村にまたがり、学校規模もさまざま、地域も広域に及んでいるため交流活動がスムーズにいかない一面がみられました。石造連のサークル活動が組織的な活動になっていかないという問題を抱えながら、今日まで至っております。

時代の変化と造形教育への新たな期待のうねりを肌で感ずるに及び、又石教研の研究基盤としてしっかり支えるためにも、もっと個々の意志の盛り上がり夜造形教育への試みや実践により力量を高める石造研の活動を見直そうという気運の高まりが見られるようになってきました。昨年の5月26日、有志への呼びかけをもとにして石造連規約を新たに設定し、新組織体制によって1年間いくつかの事業を推進してきたところです。動き出してみて、まだまだ軌道に乗った形までいっていない訳ですが、活性化を促す状況を自分たちの中から生み出していこうとする雰囲気が醸成されつつあると思います。

今年度、5月24日に総会を行ない、昨年1年間の総括を土台に又、とりくみをスタートさせようとしているところです。石造連のサークル組織と活動内容について次に記述し、全道の多くの仲間に使っていただき、今後とも御支援を得られれば、大変心強いし幸いです。

(1) 平成3年度 石造連活動方針

1. 個性や創造性がますます重視される中で、これからの教育の課題に応じていく造形教育の諸問題についていろいろな角度から自由に幅広く取り上げ活性化を図る。
2. 各種事業や交流を通して新たな意欲や発想を促す機会を求め、生き生きとした教育実践を目指す。
3. 会員相互及び他の関係者との親睦、交流を深める。

(2) 主な事業内容

- 1) 研修交流・実践交流会 (研究部)
[石造連研究基調にもとずき]
- 2) 提言・新しい試み指導事例集の取り組み(研究部) (広報部)
- 3) 会員懇親・他の実践家 (組織部)
及び団体との連絡提携
- 4) 初心者デッサン研修会及びデッサン会 (事業部)
- 5) 企画展や各地の (広報部)
情報交換・情報誌の発行
- 6) 色紙展・似顔スケッチ
実技コーナーの企画 (事業部)
- 7) 第41回全道造形教育研究会への (事務局)
参加・呼びかけ・援助
札幌大会 7月28日(日)・29日(月)
札幌市立三角山小学校
札幌彫刻美術館
講演 講師 藤城清治氏
- 8) その他造形教育振興上必要な活動

(3) 平成3年度 役員・代表委員・常任委員

●顧問 三上 晤

●役員

委員長	巖 信栄 (対雁小長)
副委員長	和田 弘 (花川南中長)
〃	本庄 勝弘 (野幌小頭)
〃	竹内 督人 (恵み野中)
事務局長	宮川 誠一 (恵み野中頭)
次長	関 建治 (花川南小頭)
局長	菊地 俊弘 (千歳中央小頭)
〃	林 憲一 (東千歳中頭)
〃	福田 靖之 (千歳第二小頭)
会計	野澤 紀義 (西の里中頭)
監査	奈良 孝秋 (千歳小長)
〃	谷村 宏巳 (向陽台小長)
〃	瀬尾 広志 (花川北中)

●代表委員

◎研究部長	伊藤 光悦 (大麻東中)
次長	山崎 正明 (江別一中)
常任委員	伝住 修一 (大曲小)
常任委員	浜口 秀樹 (花川南中)
◎組織部長	堀井 茂樹 (江別二中)
次長	宮武 輝久 (大麻中)

常任委員 雨海 亜美 (江別三中)
 " 高橋 紀子 (江別二中)
 ◎広報部長 田中 嘉 (恵庭北中)
 次長 堂下由紀子 (江別二小)
 常任委員 津川 邦彦 (柏小)
 " 宮嶋由美子 (柏小)
 ◎事業部長 藤木 邦啓 (信濃小)
 次長 井上 治子 (末広小)
 常任委員 岸 知美 (末広小)

常任委員 山内菜穂子 (千歳中)
 ○千歳地区代表委員 近藤 芳弘 (信濃小)
 ○江別地区 " 安藤 信行 (江別中央小)
 ○恵庭地区 " 浅田 真 (恵明中)
 ○広島地区 " 桑田 正博 (東部中)
 ○当別新篠津地区 " 村山 和彦 (東裏小)
 ○石狩地区 " 加藤 雅子 (石狩小)
 ○厚田浜益地区 " 岩田ひとみ (聚富中)

平成3年度の事業計画

全道小・中学生立体造形展が、読売新聞北海道支社及び北海道電力会社の事情により、15回展をもって終了のやむなきに至ったのは、誠に残念なことといわなければなりません。

立体作品の展示発表の場が少ないだけに、今後、連盟としても場の確保に力を入れていかなければならないと思えます。

さて、連盟事業の柱ともいえる、「北海道教育美術展」は、第18回を迎えることになりました。

作品の質の向上をめざすと共に、参加校が、増えることを願いながら企画・運営に当たってまいりましたが、昨年は255校の参加を見ることができ、連盟の趣旨が、全道各地に広がりつつあることを感じております。

平成3年度、第18回北海道教育美術展は、下記の日程により、開催致します。

- ・会期 平成4年1月9日(木)～14日(火)
- ・会場 札幌駅前さっぽろ東急百貨店11階
- ・表彰式 平成4年1月12日(日)
札幌駅前さっぽろ東急百貨店10階
- ・審査日 平成3年12月26日(木)・27日(金)
- ・締切日 平成3年12月16日(月)



原点

感じないと始まらない(心)

- ・朝早く起きて空を眺める。刻々とその様相が変っていく、新鮮な空気の動きにしばし我を忘れる……。
 - ・秋のある日、黄色や紅葉に囲まれた秋に飛び込み、ハッとする……。
 - ・芝生にしばしまどろみ、パッと目を開く、空も緑もひととき明るく、新鮮な一瞬に出会う……等々。
- 私が60年も前から大切にしてきた心情の様に思えるし、又その様な感情の中で私という人間が育ってきたようにも思う。そうして今日では、そのような感動との出会いを求める意欲を失わないよう努力している。もしその意欲を失った時、私の心は燃え続けるこ

連盟顧問 辻 悦 平

とが出来なくなり、生きていると言う意味が無くなるようにさえ感じるのである。

その人間の真の感動は「それを求める人にしか分からないし、与えられない」。

感性は表現の出発点であり、又限らない意欲や生命感を与えるエネルギーでもある。

私はよく言う。絵をかくとき「何をかくか」ということも大切だが、それ以上に、それを「どのように感じ(考え)」「どのように表現するか(心)」ということが重要なのである……と。

◎でも感じる事が無ければ、始まらないのである……。

サクラピグマックス ペイントマーカー ツイン8色セット 中字8色セット

- いやな臭い、裏うつりなし。
- 黒い面や、金属、プラスチック、木にも書ける。
- 書く前に振ったり、プッシュしたりする必要なし。

水性+顔料+不透明調
マーカー



コンパクトな8色セットケース
(ミシン目入りのフタですので、切り取って使うこともできます。)



150×95×49%



130×82×42%

特 長

- いやな臭いがしません。
- 紙に書いたとき、裏うつりにじみがありません。
- 書く前に振ったり、プッシュしたりする必要がありません。
- 金属・プラスチック・ガラス・木・発泡スチロールにも書けます。
- 黒い面・色つき面にも発色します。
- 耐水性・耐光性にすぐれています。
- 空気孔つきキャップ(小キャップ側)を採用しています。

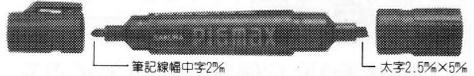
用 途

- 図画工作・造形表現に
- ポスター・グラフ・POPの作成に
- 学園祭・運動会の看板書きに
- 持ち物の名前書きに

入組配色



(ツイン) 単品……1本200円



(中 字) 単品……1本150円



* 材質により定着性・発色性に差が出る場合がございます。

あ と が き

今年の全道大会は札幌三角山小学校で行われます。今、着々とその準備が行われております。そこで今回は、札幌大会のPR版にいたしました。来年度から始まる新指導要領にのった授業提案を用意して、全道各地からの参加をお待ちしております。どうぞ88号をガイドにお集まりください。

毛馬内国夫(桑園小) 稲實 順(八軒西小) 植木則子(桑園小) 島 界二(札苗小) 岩間歳仁(厚別中)